

## Canon aps-c 安価標準ズームの進化

Canonはaps-c安価標準ズームを表1の様に4種類発売してきた。レンズ単体で購入すると2万5千円程するが、ボディキットで購入すると1万円程度である。それぞれ図1～3にMTF特性図を示す。第1世代と第1.5世代の光学性能は同じであり図1になる。徐々に性能が向上している様子が分かるが、実際にはどのように写り方が向上しているのか、遠くに置いた人形の写真を紹介する。

表1. aps-c 安価標準ズームの歴史

第1世代)	EF-S 18-55mm F3.5-5.6 IS	200g	φ69x70	9群11枚	→図1
第1.5世代)	EF-S 18-55mm F3.5-5.6 IS II	200g	φ69x70	9群11枚	→図1
第2世代)	EF-S 18-55mm F3.5-5.6 IS STM	205g	φ69x75	11群13枚	→図2
第3世代)	EF-S 18-55mm F4-5.6 IS STM	215g	φ67x62	10群12枚	→図3

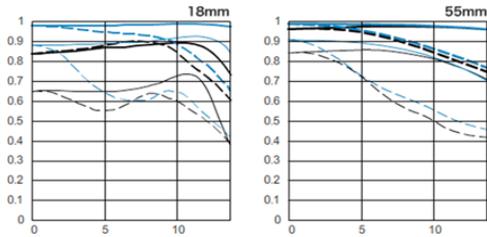


図1. 第1世代

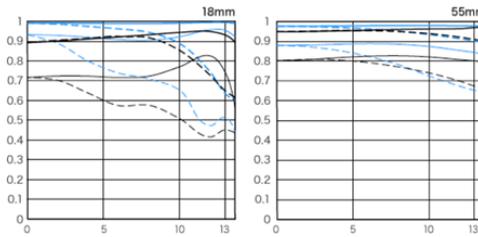


図2. 第2世代

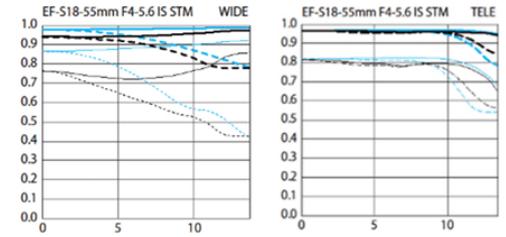


図3. 第3世代



図4. 第1世代



図5. 第2世代



図6. 第3世代

図4～6は、被写体(人形)を視野中心から周辺に2/3の位置に設置した写真。全て18mm/F4。第1世代は色収差があり、ぼやけている。初めて購入したデジタル一眼用レンズがこれだったため、非常にがっかりしたことを覚えている。第2世代以降、色収差はほとんど無くなり、画像もクリアになった。



図7. 第2世代



図8. 第3世代

図7～8は、被写体(人形)を視野左下端に設置した写真。どちらも18mm/F5.6。第2世代はややぼやけているが、第3世代はかなりクリアになった。

キャノンはHPで第3世代のレンズをコンパクト化したと述べているが、高画質化したとは述べていない。